

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/>

第178号 会 報 2003年3月20日

目 次

会長挨拶	1	合同学会のSGEPSS関連セッションについて	5
副会長挨拶に就任して	1	国際学术交流事業補助金受領の報告	6
第21A回運営委員会報告	2	人事公募	7
第221回運営委員会報告	4	賛助会員リスト	8
学会会議会員候補の選挙結果について	4	「SGEPSS小事典」	9
「学会会議の在り方」についてのパブリックコメント	4	学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール	10
EPS運営委員会より	5	SGEPSS Calendar	10

会長挨拶

第22期会長 藤井良一

昨年12月に第22期の副会長、評議員、運営委員の選挙（1月10日締切）が行われ、その結果を受けて2月22日に21期と22期の合同運営委員会が開催され、引き継ぎ後に22期の活動が開始されました。副会長、評議員会、運営委員会と一体となり、夢と活力のある学会の発展を目指して、大変微力の身ではございますが、全力をつくさせていただきたく所存でございます。御支援御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

本年10月に予定されている宇宙3機関の統合、平成16年度の国立大学や大学共同利用機関の独立法人化、また学術研究のボトムアップ機能を担ってきた日本学術会議の見直しなど、今後、研究や教育環境に大きな変動が予想されます。更に、21世紀COEに見られるように、研究機関間の競争が激化することが予想される現在、研究組織を超えて学問の発展を目的に結成されている学会の役割が今迄以上に重要になると思います。

21期からの引き継ぎ事項の一つとして、学会名見直し問題があります。この問題は総会でも指摘があったように、名称の問題だけでなく学会の将来の発展の方向性、運営、教育、AOGSも含んだ議論が必要であります。現在の合同学会をどのように発展させていくのかも含めて、運営委員会を中心に学会の広い範囲から英知を結集し希望の持てる方向性を探って行きたいと考えております。

学会発展のためには、学問の発展として、新たな

分野の開拓・育成や境界領域との連携の強化が必要です。そのためには、分科会活動を強化して将来的には他の地球科学関係の学会との連携を更に強めることを目指して行きたいと思っております。また、これに劣らず重要であるのは、学会の構成員の裾野を広げることです。専門の研究者・学生だけでなく教育の現場や科学館等との連携を深める努力、アウトリーチや教育普及活動の強化を目指して行くことが大事で、情報発信が今迄以上に重要になります。

これらの諸課題の解決は、学会内での活動を高めるとともに、他の地球科学の学会との連携なしで達成できるものではありません。この観点から前期に引き続き、上記の合同学会、教育問題について地球物理関連学会等懇談会の中に委員会を設置して、共同で検討するよう働き掛けを続けて行きたいと考えております。

副会長に就任して

第22期副会長 本蔵義守

日本地球電磁気学会に入会したのが確かM1の1969年のことであつたと思うが、それから30年余り後に副会長という職に就くことになるうとは思ひも寄らぬことであつた。なにしろ、JGGが学会誌であることすら知らず、地震研究所図書室の海外図書架でJGGを探したが見つからず、なぜないのだと騒いでいたほどであつたのだから（国内図書架にあつた）。1997年にJGG編集委員長になったときは、こんな過去を思い出して妙な気分になつたものである。

思えば学会名も地球電磁気・地球惑星圏学会と変わり、またJGGもEPSへと発展してきた。学会名改称に関しては、いろいろ議論の末、長すぎるという不評を買いつつも現在の名称に決まったが、やはり尾を引いていたようで、名称問題が再燃してしまった。当時の議論を詳しく覚えているわけではないが、個別の専門に拘泥するよりは、広く地球惑星科学全体を見渡した上での名称を模索すべきという意見があったものの、狭い専門家集団としての小規模学会が乱立している現状ではそれも無理だろうという判断であった。

その後、WPGMや合同大会を契機に、地球惑星科学関連学会連絡会が結成され、諸学会の連携強化の発展形としての学会連合が議論されたが、“連合アレルギー”が強烈でまとまるには至らなかった。ちなみに、これらの動きは本学会主導で進められてきたことは周知の事実である。また、河野元会長によって推進が図られた“地球物理学関連学会長等懇談会”でもいろいろ議論されたようであるが、現時点においても学会連合は実現の道筋すら明確ではない。折しもIUGGが札幌で開かれようとしているにもかかわらずである。

学会名称問題は重要であるが、単なる名称変更にとどまらず、荒木前会長が指摘されているように、学会運営の問題点を改善するという観点からこの問題の本質に迫る必要があると感じている。また、国立大学法人化問題を抱え、これまで以上に地球惑星科学分野の研究者の結束が必要とされる状況に鑑みると、小学会乱立状態のままでよいはずがない。“連合アレルギー”を打破し、広範な連携を確立する道は何か、少し時間をかけて模索してみたいと思っている。

EPSに関しても重大な局面にある。一見順調のように見えるが、JGGの場合と同様の構造的問題が再現しつつある。投稿数の不足である。編集委員会では、これまで特集号の企画で論文数の不足を補ってきた。しかし、特集号に関しても、国際的観点を重視し、安易な企画は認めない方針を貫いていることから、企画数が少なくなってきた。具体的には、インパクトファクター(IF)の観点から過去のEPS特集号を総点検し、特集号企画の方針を若干変更したためである。

EPSは会員の意識次第で大きく発展する可能性を秘めている。残念ながら現在のEPSのIFは高くはないが、過去のEPSのすべての論文を調査した結果、IFを高めることはさほど難しくはないという感触を得ている。今すぐに必要とされる条件は、比較的少数でもよいから会員が“国際的に引用されそうな論文”を投稿することにより、EPSを強力に引っ張ることである。また、質の高い比較的少数の論文からなる特集号を出すことである。いずれも少数の会員の熱意と協力があれば実現できることなのである。

合同大会及びEPS(合同学会誌)を中心に据え、我が国の地球惑星科学の発展を目指す方策を考える

中で、我が学会の名称問題を発展的に解決できるのではなからうか。藤井会長を補佐しつつも、副会長任期中にこれらの問題を考えてみたい。会員の皆さんからのご意見を期待しています。

第21A回運営委員会報告

(第21、22期合同運営委員会)

日時：2003年2月22日 13時10分 - 16時50分

場所：宇治・京大キャンパス内RASC旧館2階
セミナー室

[出席] 荒木徹、藤井良一、本蔵義守、井口博夫、大村善治、小野高幸、品川裕之、山崎俊嗣、松岡彩子、中村正人、橋本武志、山本衛、家森俊彦、小川康雄、高橋幸弘、船木實、村山泰啓、臼井英之、石川尚人、小原隆博、北和之、河野英昭、綱川秀夫

[欠席] 麻生武彦、歌田久司、野澤悟徳、渡部重十

(注：新旧運営委員会の引き継ぎを兼ねて合同で開催した。なお、運営委員会開催番号の21Aは、21が21期を表し、下1桁のAは、第10回目であることを示す。)

1. 役員選挙結果

第22期役員選挙は1月10日に締め切り、1月15日17時00分から21時50分まで、京都大学大学院理学研究科地磁気世界資料解析センターセミナー室にて、中村卓司、田中良和、齋藤昭則3会員の立ち会い(および作業補助)の下、荒木徹会長と大村善治、家森俊彦両運営委員により開票・集計を行った。投票総数171、無効票0であった。

以下にその結果を示す。(*印は当選者)

(1) 副会長選挙結果

順位	氏名	得票数	
1	本蔵義守	59	*
2	歌田久司	14	(次点)
3	上出洋介	13	
3	福西 浩	13	
5	深尾昌一郎	12	

(2) 評議員選挙結果

順位	氏名	得票数	
1	松本 紘	100	*
2	河野 長	93	*
3	福西 浩	85	*
4	上出洋介	78	(辞退)
5	本蔵義守	72	(副会長)
6	江尻全機	70	*
6	西田篤弘	70	(辞退)
8	國分 征	55	(辞退)
9	大家 寛	53	*
10	鶴田浩一郎	52	(辞退)
11	深尾昌一郎	44	*
12	湯元清文	38	*

13	向井利典	35	*
14	浜野洋三	34	*
15	寺沢敏夫	33	(次点)

(および、荒木徹 前会長)

なお、内規第2条の2として、昨秋新たに追加された評議員の辞退に関する条項により、上出洋介、西田篤弘、國分征、及び鶴田浩一郎の4会員から評議員辞退の申し出があり、その結果、深尾昌一郎、湯元清文、向井利典、浜野洋三の4会員が評議員に繰り上げ当選となった。

(3) 運営委員選挙結果

順位	氏名	得票数	
1	山崎俊嗣	126	*
2	松岡彩子	124	*
2	中村正人	124	*
4	橋本武志	123	*
5	山本 衛	121	*
6	家森俊彦	110	*
7	小川康雄	107	*
8	高橋幸弘	106	*
9	船木 實	105	*
10	村山泰啓	101	*
11	臼井英之	97	*
12	石川尚人	95	*
13	小原隆博	93	*

(14位 - 18位)

14	長妻 努	88	(次点)
15	野澤悟徳	86	* (会長裁量枠)
16	北 和之	83	* (会長裁量枠)
17	河野英昭	81	* (会長裁量枠)
18	田口 聡	69	

14位以下の得票者については、藤井新会長より、所属機関、分野、地域の分布を考慮して、野澤悟徳、北 和之および河野英昭の3会員を会長裁量枠から選出したいとの申し出があり、了承された。

2. 国際学术交流若手派遣

長尾大道会員を4月6日から4月11日まで、フランス・ニース市で開催予定のEGS-AGU-EUG Joint Assembly に研究発表のため派遣することを決定した。

3. 研究助成学会推薦決定

学会に2件推薦枠のある山田科学振興財団研究援助に、高橋幸弘会員と乙藤洋一郎会員を推薦することに決定した。

4. 諸報告

・第19期日本学術会議会員選挙のための、学会指名会員候補者及び会員推薦人の、評議員および運営委員による予備投票の結果は下記のとおり。(投票総数15、敬称略)

会員候補者：河野長、松本紘、西田篤弘、荒木徹、大家寛(次点：国分征)

会員推薦人：本蔵義守、上出洋介、藤井良一、福西浩、松本紘(次点：深尾昌一郎、荒木徹)

これら各々5名の会員を候補者として一般会員の投票(3月3日締め切り)に付し、会員候補者2名、会員推薦人1名、会員推薦人予備者1名を学会として指名することになる。

・IUGG2003大会アウトリーチ部会より、小中高生徒や市民向け講演の依頼があった。

・EPS運営委員会委員より、(1)来年度科研費申請を行ったこと、(2)日本で開催されるIUGGの良い特集号を獲得するための競争力強化策として、カラー2ページまで無料とすること、別刷りを100部買わなくても、PDFファイルを著者に提供することが報告された。

・合同学会投稿数は1641件+(前回は約1800件)、参加申込数は約1600人であることが、合同大会担当委員より報告された。

・IUGG2003の募金状況について、現時点で当学会が集めた一般会員からの寄付は、約40万円で、企業からは1件のみであることがIUGG募金担当委員より報告された。参加学会全体では、6000万円が目標であるが、現時点では、約2000万円しか集まっていない。

・学術会議地球電磁気学研究連絡委員会委員より、将来計画案のとりまとめが最終段階であることが報告された。

・総合科学技術会議に設置された日本学術会議の在り方に関する専門委員会の「中間まとめ」に対するパブリックコメントを、地球物理関連学会会長等懇談会代表(瀬川爾朗)および当学会会長(荒木徹)名で、それぞれ提出した。まとめがいつ出るか等は不明とのこと。

5. 今期学会運営の総括、反省、次期への申し送り事項につき、会長・副会長および各委員が意見を述べた。学会名見直しについては、運営委員会外の会員を含めたワーキンググループを作って議論を続けることになっているが、名前の問題だけに限ったのでは進まないと思われるので、運営、教育、AOGSの問題も含め、まず、どのようなWGを作るのかということ、新運営委員会で議論して進めることになった。分科会については、定義(位置)づけを行うとともに、規約(内規)に盛り込むべきこと、名簿の発行は、6月に改訂資料収集、12月に発行程度の時間的余裕でちょうどよかった、評議員の辞退権および副会長制については今後も継続して議論すべき、現行の役員選挙投票方式は、開票作業に時間がかかるので、次回は工夫する必要がある、AGUのような学会名簿の電子化もそろそろ考えてもいいのではないかと、等の意見が述べられた。

第221回運営委員会報告

日時：2003年2月22日 17時00分 - 18時00分
場所：宇治・京大キャンパス内RASC旧館2階
セミナー室

[出席]藤井良一、本蔵義守、山崎俊嗣、松岡彩子、
中村正人、橋本武志、山本衛、家森俊彦、
小川康雄、高橋幸弘、船木實、村山泰啓、
臼井英之、石川尚人、小原隆博、北和之、
河野英昭（前期運営委員も途中まで参加）

[欠席]野澤悟徳

1. 第22期運営委員の役割分担を下記のように決めた。

会長：藤井良一

副会長：本蔵義守

総務：山崎俊嗣

庶務（会員名簿を含む）：野澤悟徳、小川康雄

広報：（会報）小原隆博[企画]、村山泰啓[編集]

（学会ホームページ）臼井英之、橋本武志

会計：松岡彩子、船木實

EPS誌：山崎俊嗣、山本衛

IUGG・学会連合（研究連絡委員会担当を含む）：

中村正人、家森俊彦

合同大会連絡会委員：高橋幸弘

大会・プログラム：松岡彩子、石川尚人、

山本衛、臼井英之

分科会：高橋幸弘、北和之、石川尚人

賛助会員担当：中村正人

アウトリーチ（地学連絡協議会担当を含む）：

河野英昭、船木實、北和之、高橋幸弘

2. 改名問題等に関するワーキンググループについて、学会連合の問題も含め、合同運営委員会に引き続き、意見を交換した。その結果、WGを作る前に、どのようなWGを作るのか、更に問題点をつめることになった。

3. 次回会報は、3月10日原稿締切で編集・発行を行う。

学術会議候補者の選挙結果について

「地球電磁気・地球惑星圏学会からの第19期学術
会議会員候補者および会員推薦人候補者の選出」

上記会員候補者および会員推薦人各々5名の被選挙人は、学会内規第6条に則って運営委員会と評議会双方の委員により決定され、3月3日を締切として学会正会員による投票が行われました。3月5日名古屋大学太陽地球環境研究所で立会人の下に開票の結果、

会員候補者

西田篤弘会員 54票

河野 長会員 27票（次点）

有効投票数 143票（無効1票）

会員推薦人候補者

松本 紘会員 34票

本蔵義守会員 31票（次点）

有効投票数 139票（無効3票）

という結果となりました。従いまして、会員候補者として西田篤弘会員、会員推薦人候補者として松本紘会員、推薦人予備者として本蔵義守会員を選出いたしました。（藤井 良一）

「学術会議の在り方」についての パブリックコメント

会報177号（前号）でもお知らせしましたが、総合科学技術会議の『日本学術会議の在り方に関する専門委員会』で学術会議の改組案が検討されており、その『中間まとめ』に対するパブリックコメントが募集されました。学術会議は学術の推進に重要な役割を担っているため、その将来には重大な関心抱かざるを得ません。当学会では、評議員会・運営委員会でこれについて議論し、それに基づき次のコメントを提出しました。

また、地球物理関連11学会の学会長と関連学術会議研連委委員長等からなる「地球物理関連学会学会長等懇談会」からも代表者瀬川爾朗氏の名前でコメントを提出しました。

「総合科学技術会議日本学術会議の在り方に関する専門調査会」殿

総合科学技術会議日本学術会議の在り方に関する専門調査会「日本学術会議の在り方について（中間まとめ）」は、日本の学術研究体制の基本に関する重要なものでありますので、地球電磁気・地球惑星圏学会では、評議員会と運営委員会でその内容を検討し、会員にも広く周知させました。その結果、学会として下記の意見を提出することになりましたので、ご検討下さる様、宜しくお願いいたします。

平成14年12月3日

地球電磁気地球惑星圏学会
会長 荒木 徹

総合科学技術会議日本学術会議の在り方に関する専門調査会「日本学術会議の在り方について（中間まとめ）」に対する意見

地球電磁気地球惑星圏学会
会長 荒木 徹

1. 平成14年11月18日付けで、日本学術会議運営審議会付置「日本学術会議の在り方に関する委員会」から総合科学技術会議議員/総合科学技術会議専門委員宛に出された文書『総合科学技術会議日本学術会議の在り方に関する専門調査会「日本学術会議の在り方について（中間まとめ）」について』（総日庶第473号）は、「中間まとめ」の問題点を的確に

指摘しており、当学会は、これを支持する。

2. 当学会としては、上記学会議の文書中の下記3点を特に重要と考える。

(1) 「3.機能 (1)基本機能 科学に関する連絡・調整機能 イ国際交流機能」

現研究連絡委員会が行っている重要な任務の一つにICSU傘下のユニオンやアソシエーションへの対応がある。研連を廃し会員数200-300とする新組織では、これが出来なくなる。また、これらのユニオンやアソシエーションの中には各国のアカデミーからしか分担金を受けられないという制約があるところもある。

(2) 「3.機能 (1)総合科学技術会議との関係」
学会議は学問研究に関する提言、総合科学技術会議はその政策化と機能を分けるべきである。現在の総合科学技術会議の構成には偏りがあり、視野が狭くなっているため、「車の両輪」とするには、議員の数を増やし、諮問調査機能を充実させる必要がある。

(3) 「3.組織・機能 会員の種類と数」
200-300の会員では、人文、社会、自然科学の全領域をカバーできず、小さいが重要な分野の事情が分からなくなる可能性がある。「ボトムアップ的に科学者の意見を広く集約」するには、より多くの会員数が必要である。(荒木 徹)

EPS運営委員会より

EPS運営委員会では、雑誌の知名度・ステータスを向上させ、インパクトファクターを向上させることに取り組んでいます。これは、今後他誌との競争の中で出版助成金を確保していくためにも絶対に必要です。EPS誌へのよい論文の投稿を、会員の皆さまに是非お願いします。一般投稿だけではやや論文数が不足している現状に対して、特集号に頼らなくてもよいレベルの投稿数を目指します。

EPSは速い

E-letterは、査読は1か月程度、Accept後は1か月以内に載ります(on-line)。詳細および実例はHP (<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/index.html>) を御覧下さい。通常論文もスピードアップにつとめています。

「特別セッション」をご利用ください。

EPS誌では「特別セッション」を設けています。これは、通常号の中に、特定のテーマに関する論文をまとめて掲載するもので、目次にセッション名がボードで入り、「Research News」を利用してPrefaceを載せることも可能ですから、特集号に近い形で出版できます。例として、Vol.54 (2002) No.1 "F-region radio ---" Vol.54 (2002) No.8 "The 2000 western Tottori earthquake"があります。査読は通常論文と同じプロセスで行われます。タイムリーな企画にぜひご利用下さい。

EPSのOn-line版について。

冊子体の購読者(シニア会員を除く全SGEPSS会員)は、無料でon-line journalにアクセスできません。2003年のpasswordは、Vol.55 No.1に挟み込まれた用紙に記されています。なお、E-letterにはアクセス制限はかけられていません。

キーワード

キーワード検索を可能とするため、2003年より論文にkeywordを付すとともに、EPS創刊以降の5年分の論文についてはEPS誌運営委員会でkeywordを選択することになりました。特集号のGuest Editorをされた方など、ご協力をいただいている会員各位に感謝します。(山崎 俊嗣)

合同大会のSGEPSS関連セッションについて

2003年地球惑星科学関連学会合同大会におけるSGEPSSレギュラーセッションの日程概要をお伝えします。

合同大会日程：2003年5月26日(月)~29日(木)

場所：幕張メッセ 国際会議場

大会中の学会関連行事など：

SGEPSS総会 28日(水) 昼休(2F国際会議室)

SGEPSS運営委員会 26日(月)19:00-21:00

(1FレストランNOA内)

SGEPSS評議員会 27日(火)19:00-21:00(2F203室)

総会時にはお弁当(1000円程度)を60食用意します(先着順)。

以下、「セッション短縮名、時間帯記号(部屋番号)」を列記します。時間帯記号はAM1=09:30-10:30、AM2=10:45-12:15、PM1=13:45-15:15、PM2=15:30-17:00、となります。

5月26日(月)

地震・火山活動に関連する電磁気現象 AM1,AM2(201B)

電離圏・熱圏 AM1, AM2, PM1 (202)

宇宙プラズマ理論・シミュレーション PM2 (202)

5月27日(火)

磁気圏-電離圏結合 AM1, AM2, PM1, PM2 (201B)

大気圏・熱圏下部 AM1, AM2, PM1, PM2 (202)

5月28日(水)

宇宙天気 AM1, AM2 (201B)

太陽惑星間空間 PM1, PM2 (201B)

5月29日(木)

地磁気・古地磁気 AM1, AM2, PM1 (301A)

電気伝導度・地殻活動電磁気学 PM2 (301A)

磁気圏構造とダイナミクス AM1,AM2,PM1,PM2 (101B)

ポスターセッションのコアタイムは 同日の17:15-18:45。詳細は、合同大会のホームページ<http://www.epsu.jp/>を御覧下さい。(高橋幸弘)

国際学術交流事業補助金受領の報告

名古屋大学太陽地球環境研究所
関 華奈子



本学会の国際学術交流事業のご援助を賜り、2002年10月10日から19日にかけて米国・ヒューストンで開催された、第34回宇宙空間研究委員会(COSPAR)科学会議に参加させていただきました。本年は、3月の現職着任に伴い学振特別研究員PD時の科研費を辞退する必要があったため、講演依頼を受けてしまった後にも、旅費が確保できていないという状態になりました。このような状況下でいただきました今回の旅費補助はとてありがたく、お陰をもちまして会議に参加、招待講演を果たすとともに、多くを学ぶことができました。この場をかりまして、学会および関係者の皆さまに、感謝を申し上げたいと存じます。

今回のCOSPAR科学会議は、第2回 World Space Congressとして、第53回国際宇宙連盟(IAF)大会、国際宇宙産業展示会、および教育広報プログラムとの同時開催形式。理工の専門セッションだけで450以上、教育プログラム等も含めた全参加者は2万人を超えるという大規模な国際会議でした。数多くあるセッションは、日本では聞く機会の少ない研究発表を聞き、質疑応答を通じて疑問点のいくつかに答えを得る機会を与えてくれました。特に、Cluster II衛星による編隊飛行観測結果や IMAGE衛

星による磁気圏撮像観測、惑星プラズマ直接探査の最新の成果の中には、好奇心を刺激するものが多く、今後の研究に生かしてゆきたいと考えております。一方、反省点としては、パラレルセッションが多い中でのセッションの選び方と、コアタイムがはっきりしなかったこともあり、事前にチェックしつつも説明を聞く機会を逃してしまったポスター発表が複数あったことが挙げられます。

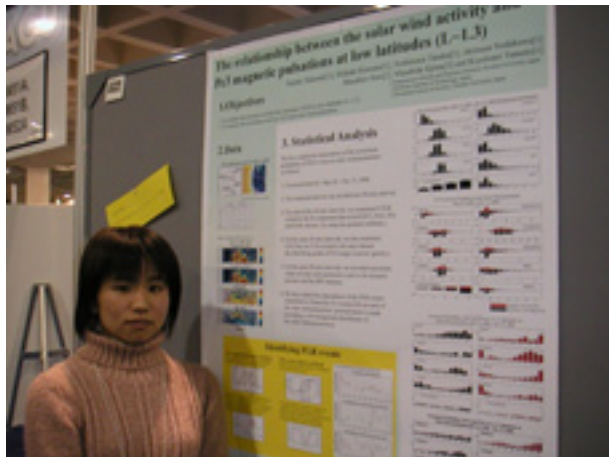
自らの発表としては "Solar Wind - Magnetosphere - Ionosphere Dynamics and Interactions: Global Perspectives" という大きなテーマを掲げたセッションで、磁気圏内プラズマ輸送/物質収支に関わる最近の研究結果について、報告する機会をいただきました。「Dynamics of oxygen ions in the Earth's magnetotail: Geotail and FAST observations」というタイトルで、GEOTAIL、FAST両衛星のデータに基づき、プラズマシートにおける地球起源イオンのダイナミクスに重点をおいて報告しましたが、これまであまり面識のなかった研究者からデータ比較研究の提案をいただいたことをはじめ、有意義な議論を持つことができました。その他に、自分が興味を持っている海外の衛星探査将来計画について、web経由では得にくい内部事情や評価のしくみを個人ベースで教えていただく機会を得たこと、また逆に、先方の質問に対して、日本で計画されている SCOPE計画などについて説明する努力をし、その科学的意義について率直なコメントをいただいたことも、自らの将来展望を練る上でよい経験となりました。

今回の国際会議では、約350の宇宙関連の研究機関および企業の展示ブースが設けられなど、教育および広報プログラムに力が入られていたことも、特徴の一つだったと思います。一般向け展示を見る時間はあまり取れなかったため全てを網羅的に見たわけではありませんが、特に印象に残ったこととして、SGEPSS関連のブースの少なさと、地球観測や天文観測に関わるブースのいくつかで目にした「わかりやすさ」への工夫とがありました。次世代を担う子供たちに夢を与え科学の楽しさを伝えることも、宇宙に関連した基礎研究の果たすべき役割の一つであると考えます。楽しそうに見学に訪れていた親子連れの反応を観察しながら、社会への還元や教育といった面でも、考えさせられることが多く、学ぶべきことの多い国際会議でした。

今回の渡米は、色々な意味で視野を広げる機会を与えてくれました。今後、渡米中に得た知見を実際の研究活動に生かすことができるよう、努力して参

りたいと存じます。ご援助、どうもありがとうございました。

九州大学宇宙地球電磁気学研究室
高崎聡子



2002年12月6日から11日にかけて開催された米国地球物理学連合 (AGU) 2002年Fall meetingにおける研究発表に際し、本学会の国際学術交流事業のご援助を頂きました。貴重な機会を与えて下さった本学会関係者の方々に心から御礼申し上げますと共に、AGUにおける研究発表とその成果について以下に報告致します。

今回私は「The relationship between the solarwind activity and Pc3 magnetic pulsations at low latitudes (L~1.3)」という題でポスター形式で発表させて頂きました。九州大学の宇宙地球電磁気学研究室では地上多点同時観測による地球近傍プラズマ圏プラズマ密度の時間的・空間的な変化をモニタリングする研究が進められています。今回の発表ではそれを最終目的とした上で、地上に設置した磁場観測点網によって地磁気現象を観測・データ解析することによって低緯度（磁力線のtopが高度2000~3000kmに位置します）における内部磁気圏プラズマ密度の時間的・空間的变化の特徴と太陽風活動度各パラメータとの相関について調査した結果を報告しました。また、海外ではいくつかの研究室が同様の研究を進めており、今回のAGUでは海外の研究室による地上磁場観測を応用したプラズマ密度診断の研究成果が報告されました。それらの報告を聴き、また意見交換したことは自分の知見を高める上でも大きな収穫となりました。このような交流を通して北アメリカ西海岸に磁場観測点網を設置しているUCLAのグループとはデータ交換についても話し合いました。私のポスター発表の際には同じ研究に携わる多くの方が質問の為に訪れてくれました。多くの方々からの質問を通して意見交換と交流が出

来たことは私にとって研究意欲を高める良い刺激になった反面、私の研究進行の遅さに忸怩たるものがありました。この経験を今後の研究にいかし、早急に目標を達成すべく努力する所存です。

今回のAGUでは私が研究対象としている領域が低緯度で電離層付近であることもあり、電離層上部を起源とするheavy ionを対象とした研究についても非常に興味があります。今回のAGUでは太陽風や地球磁気圏の擾乱に対する電離層起源のheavy ionの応答が衛星観測によって数多く報告されており、高緯度領域における報告が大半だったとはいえ、非常に興味深く聴かせて頂きました。

今回は学生の身分である私の現在の収入では渡航費用調達は不可能であり、所属する研究室も旅費支給を行えなかった為に国際学術研究集会出席補助金を申請致しました。研究者として何も成し得ていない弱輩者の私に補助金を支給するべく御尽力頂いた湯元先生と河野先生そして、家森先生や小原先生をはじめとする本学会の関係者の方々に改めてお礼を申し上げます。このような貴重な機会を与えて下さった皆様、誠にありがとうございました。

最後に、海外の会議への参加を希望されている若手研究者、特に収入のない学生の方々にはこの制度を積極的に利用して見聞を広められることを強く希望します。

人事公募

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

公募人員：助教授1名及び助手1名、又は助手2名

所属：大気圏環境部門

公募分野：大気科学

現在、当研究所では、地球大気を太陽-地球システムの中でとらえて、大気科学の研究を進めており、ミリ波サブミリ波を用いた国内外の地上観測による大気の研究グループを立ち上げようとしています。測定データ解析や観測装置開発等も含め、実測データに基づいた大気科学研究に積極的に取り組んでいただける方を望みます。ただし、ミリ波大気観測の経験を必ずしも問いません。

また、全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解して、共同利用の推進に意欲的な方を希望します。助教授に関しては大学院等の教育・研究指導に熱意をもってあたられる方を希望します。

着任時期：決定次第できるだけ早い時期

資格：助教授に関しては、博士号取得者。

助手に関しては、大学院修士課程修了又は同等以上。

提出書類：(1)履歴書(2)研究歴、(3)業績リスト、(4)主要論文別刷、(5)研究計画書、(6)2

名の方からの推薦書又は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記載した書面、(7)希望職種を記載した書面。なお、上記の提出された書類は、返却しない。

書類送付先：〒442-8507愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所長 上出洋介
公募締切：平成15年5月9日(金)(必着)
問合せ先：

(1) 当該部門の状況等について
〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
大気圏環境部門主任 松見 豊
TEL：0533-89-5192 FAX：0533-89-5593
E-mail：matsumi@stelab.nagoya-u.ac.jp

(2) 提出書類について
〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所庶務掛
TEL：0533-89-5151～5152

選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

その他：封筒の表に「大気圏環境部門教官公募書類在中」と朱書きし、書留にて郵送願います。

賛助会員リスト

エコー計測器(株)

182-0025
東京都調布市多摩川2-3-2
tel. 0424-81-1311
fax. 0424-81-1314
URL <http://www.clock.co.jp/>

(有) オプティマ

134-0083
東京都江戸川区中葛西5-32-8
tel. 03-5667-3051
fax. 03-5667-3050
URL <http://www.optimacorp.co.jp/>

クローバテック(株)

180-0006 東京都武蔵野市中町3-1-5
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478

国際電子工業(株)

164-0014東京都中野区南台5-34-10
tel. 03-3384-4411
fax. 0426-61-8533
URL <http://homepage2.nifty.com/kokusaidenshi/index.html>

(有) テラ学術図書出版

158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-27-19
三青自由ヶ丘ハイム2003
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

(有) テラテクニカ

206-0812 東京都稲城市矢野口 3266-1
ランド式番館
tel. 042-379-2131
fax. 042-370-7100

(株) 夏原技研

532-0012 大阪市淀川区木川東 3-6-20
第五丸善ビル
tel. 06-6390-8418
fax. 06-6390-8436

NEC東芝スペースシステム(株)

224-8555 横浜市都筑区池辺町4035
tel. 045-938-8230
ext: 8-399-2590
fax. 045-938-8324
ext: 8-399-2559

富士通(株) 宇宙システム部

261-8588 千葉市美浜区中瀬 1-9-3
富士通システムラボラトリ
tel. 043-299-3247
fax. 043-299-3012
URL <http://jp.fujitsu.com/>

丸文(株) 営業本部航空宇宙部計測機器課

103-8577 東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1
tel. 03-3639-9821
fax. 03-3661-7473
URL <http://www.marubun.co.jp/>

SGEPSS小事典

このコーナーでは、当学会に関連する用語の解説や、豆知識をお伝えします。



ICSU (International Council for Science) の構成

ICSUは、1997年までは、International Council for Scientific Unions (国際学術連合会議;1931年創設)と呼ばれていた。1998年にInternational Council for Scienceと改称されたが同じ略称ICSUが使われており、科学アカデミー等の国を代表する学術組織と国際学術連合(IUGG、URSI等)および関連科学委員会等(SCOSTEP、WDC Panel等)から成る国際学術組織である。我が国では日本学術会議がこれに対応しており、吉川学術会議議長が1999-2002年期のICSU Presidentを務められた。

Scienceの組織は下記のように分かれる(関連組織のみを記す)。括弧内は、学術会議の対応研究連絡委員会・専門委員会である。

(A) Scientific Union Members

IAU : International Astronomical Union (天文学研連)

IUGG : International Union of Geodesy and Geophysics (地球物理学研連)

IUGS : International Union of Geological Sciences (地質学研連)

IUPAP: International Union of Pure and Applied Physics (物理学研連)

URSI : Union Radio Scientifique Internationale (電波科学研連)

注 : IUGGの下に次の7 Associations がある .

IAG : International Association of Geodesy (測地学研連)

IAGA : IA. of Geomagnetism and Aeronomy (地球電磁気学研連)

IAHS : IA. of Hydrological Sciences (陸水学研連)

IAMAS : IA. of Meteorology and Atmospheric Sciences (気象学研連)

IAPSO : IA. for the Physical Sciences of the Oceans (海洋物理学研連)

IAPSEI: IA. of Seismology and Physics of the Earth's Interior (地震学研連)

IAVCEI: IA. of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior (火山学研連)

(B) Scientific and Special Committees and other interdisciplinary bodies.

SCOSTEP: Scientific Committee On Solar-TERrestrial Physics (SCOSTEP専門委)

COSPAR : Committee On SPACE and Research (宇宙空間研連)

SCAR : Scientific Committee on Antarctic Research (極地研連)

CODATA : COmmittee on DATA for Science and Technology (情報学研連学術情報専門委)

FAGS : Federation of Astronomical and Geophysical Data Analysis Services

WDC : Panel on World Data Centres (Geophysical, Solar and Environmental)

(地球電磁気学研連WDC WG)

IUCAF : Scientific Committee on Frequency Allocations for Radio Astronomy and Space Science

IGBP : International Geosphere-Biosphere Programme

START : Global Change System for Analysis, Research and Training

SCL : Scientific Committee on the Lithosphere

SCOR : Scientific Committee on Oceanic Research

注 : CODATA、FAGS、WDCのデータ関係3組織は、CODATA(主として物理・化学・生物データ)、FAGS(太陽黒点数、地磁気指数など)、WDC-Panel(World Data Centerの運営統括)と役割を分担している。

(C) Joint Initiatives : International programmes organized by ICSU or its Members in partnership with other inter- or non-governmental organizations

WCRP (WMO-ICSU-IOC World Climate Research Programme)、GCOS (Global Climate Observing System)、GOOS (Global Ocean Observing System)、GTOS (Global Terrestrial Observing System) 等

関連Webサイト : <http://www.icsu.org>
<http://www.nas.go.jp>

(荒木 徹)

学会賞・国際交流事業関係 年間スケジュール

下記のようになっております。積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は、学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦/問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月末日
田中館賞	会長	8月末日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦作業委員長	1月31日
国際学術交流若手派遣	学会事務センター	2, 5, 8, 11各月の15日
国際学術交流外国人招聘	学会事務センター	2, 5, 8, 11各月の15日

SGEPSS Calendar

[2003年]		
4月7日～11日:	EGS-AGU Joint Assembly	Nice, FRANCE
6月30日～7月11日:	IUGG 2003	Sapporo, JAPAN
7月31日～8月7日:	The 28th International Cosmic Ray Conference (ICRC2003)	Tsukuba, JAPAN
8月25日～29日:	EISCAT International Workshop	Menlo Park, California, U.S.A.
12月8日～12日:	AGU 2003 Fall Meeting	San Francisco, U.S.A.
[2004年]		
5月17日～21日:	Joint AGU-Canadian Geophysical Union (CGU) meeting	Montrial, CANADA
7月5日～9日:	The First Asia-Oceania Geophysics Society Meeting	SINGAPORE
8月16日～20日:	Western Pacific Geophysics Meeting	Honolulu, Hawaii, U.S.A.
[2005年]		
7月18日～29日:	IAGA General Assembly	Toulouse, FRANCE

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 藤井 良一 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学太陽地球環境研究所
TEL: 052-789-4309 FAX: 052-789-4311 e-mail: rfujii@stelab.nagoya-u.ac.jp

総務 山崎 俊嗣 〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7
産業技術総合研究所 地質調査総合センター 海洋資源環境研究部門
TEL: 029-861-2414 FAX: 029-861-3589 e-mail: toshi-yamazaki@aist.go.jp

庶務 村山 泰啓(会報担当) 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1
通信総合研究所 電磁波計測部門 北極域国際共同研究グループ
TEL: 042-327-6685 FAX: 042-327-6678 e-mail: murayama@crl.go.jp

運営委員会 〒113-8622 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 学会事務センター気付
TEL:03-5814-5810 会員業務(入退会、住所変更等、会費、会誌)
TEL:03-5814-5801 学会業務(庶務、窓口、渉外)
FAX:03-5814-5820